

昭和49年度畑作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和49年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会は、昭和49年12月12日～13日の2日間、東京（東京農林年金会館）において開催された。その結果の概要をここに紹介する。

昭和49年度に供試された畑作関係除草剤は合計57薬剤で前年度の71薬剤に対して15

剤ほど減少した。また、供試薬剤についての試験結果の判定は第1表に示すとおりである。実用化にうつされた薬剤は、11作物中25薬剤であった。「実用化」および「実用化および継続検討」薬剤の使用基準を示すと第2表のとおりである。

I 供試薬剤

＜定性スクリーニング＞ (6剤)

S-28乳, S-97乳, SSH-40水和, SL-041水和, SL-55乳,

NP-31乳

＜作用特性試験＞ (29剤)

1) 大豆

S-28乳, A-820乳, NP-24水和, NP-28水和, SSH-36液,

MC-79乳, SL-041水和, SL-55乳, トリフルラリン乳

(以上 9剤)

2) 小豆

NP-24水和, SSH-36液, SL-041水和, SL-55乳

(以上 4剤)

3) 菜豆

A-820乳, SSH-36液, BAS-3510水和

(以上 3剤)

4) とうもろこし

SL-041水和, SL-55乳

(以上 2剤)

5) 落花生

A-820乳, NP-24水和

(以上 2剤)

6) 甘しよ

NP-24 水和

(以上 1 剤)

7) てんさい

(直播) S-97 乳, U-67 粒, U-67 水和

(以上 3 剤)

(移植) S-97 乳, U-67 粒, U-67 水和, NP-33 水和

(以上 4 剤)

8) 畑作一般, 非農耕地

HW-34・D

(以上 1 剤)

<適用性試験………第1表参照>

(計 48 剤)

II 対象作物・薬剤別判定結果

<第1表> 昭和49年度畑作関係除草剤判定表

区 分	実 用 化	実 ・ 継	継 続	継 ？	中 止
1) 大 豆	NK-049・P水和	SKH-01 水和 NP-24 水和	S-28 乳 B-3015・L乳 MC-79 乳 NP-23 乳 NP-28 水和 ANK-553 乳 B-3015・P粒		
2) 小 豆		ANK-553 乳	SKH-01 水和 プロメトリン・ アラクロール乳 SLD-695水和		
3) 菜 豆	HSW-7201水和	NP-24 水和 ANK-553 乳	A-820 乳 SKH-01 水和 プロメトリン・ アラクロール乳		
4) 落 花 生		A-820 乳 NK-049・P水和 NP-24 水和 NTN-80 水和 プロメトリン・ アラクロール乳	ブラナビアン 微粒 NP-23 乳 ANK-553 乳		
5) 甘 し ょ	エナイド 水和 NP-24 水和	ブラナビアン 水和		プロメトリン粒	

区 分	実 用 化	実 ・ 継	継 続	継 ？	中 止
6)とうもろこし	クロロIPC・ アラクロール乳	アトラジン500 FW 乳			
7)ばれいしょ	プロメトリン 水和	NTN-70 水和			
8)てん菜直播		HSW-4901水和 SL-38 乳			S-97乳
9)てん菜移植		SL-38 乳	NP-24 水和 NP-38 水和 U-67 水和		S-97乳
10)こんにゃく		バラコート 液	リニュロン 粒		
11)さとうきび	アメトリン 水和	NTN-70 水和			

Ⅲ 実用化判定薬剤使用基準

<第2表> 昭和49年度畑作関係実用化除草剤使用基準

	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
1) 大 豆	NK- 049・P	水和	実	土 壤	播 種 後	⊕ 50~60 g/a	全 土 壤	寒地~ 温暖地	
	SKH-01	水和	実・継	土 壤	播種後~ 出芽前	⊕ 20~30 g/a	全 土 壤	寒 地	イネ科雑草の 少ない圃場に 使用する。
	NP-24	水和	実・継	土壌~茎葉	播種後~雑草 (メヒシバ) 4葉期	⊕ 25~50 g/a	全 土 壤	寒冷地以西	イネ科雑草優 占地帯に使用 する。
2) 小 豆	ANK- 553	乳	実・継	土 壤	播 種 後	⊕ 30~40 g/a	全 土 壤	寒 地	
3) 菜 豆	HSW- 7201	水和	実	土 壤	出 芽 前	⊕ 30~40 g/a	全 土 壤	寒 地	
	NP-24	水和	実・継	茎葉 (体系)	前処理(リニュ ロン) 後 24~26日	⊕ 25~50 g/a	全 土 壤 (砂土を 除く)	寒 地	イネ科雑草優 占地帯に使用 する。

	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
3) つづき	つづき				雑草(メヒシバ)4葉期まで				
	ANK-558	乳	実・継	土 壤	播 種 後	⊕ 30~40 g/a	全 土 壤	寒 地	
4) 落 花 生	A-820	乳	実・継	土 壤	播 種 後	成分 15~20 g/a	全 土 壤	温 暖 地	
	NK-049・P	水和	実・継	土 壤	播 種 後	⊕ 50~60 g/a	全 土 壤	温 暖 地	
	NP-24	水和	実・継	土壌～茎葉	播種後～雑草(メヒシバ)4葉期	⊕ 25~50 g/a	全 土 壤	温暖地以西	イネ科雑草優占地帯に使用する。
	NTN-80	水和	実・継	土 壤	播 種 後	成分 20~30 g/a	全 土 壤	温暖地以西	
	プロメトリン・アラクロー ル	乳	実・継	土 壤	マルチ前	⊕ 20~30 g/a	全 土 壤 (砂土・砂壤土を除く)	寒 冷 地	
			実・継	土 壤	播 種 後	⊕ 20~30 g/a	全 土 壤 (砂土・砂壤土を除く)	温暖地以西	
5) 甘 し ょ	エナイド	水和	実	土 壤	挿 苗 後	⊕ 60~80 g/a	全 土 壤	温暖地以西	跡作としてウリ類、麦類、トウモロコシ等の作付はさける。
	NP-24	水和	実	土壌～茎葉	挿苗後～雑草(メヒシバ)5葉期	⊕ 25~50 g/a	全 土 壤	温暖地以西	イネ科雑草優占地帯に使用する。

	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
5) つづき	ブナナビアン	水和	実・継	土 壌	挿苗直後	㊥ 20~25 g/a	全 土 壌	温暖地以西	・早掘栽培を含む。 ・挿苗前の使用はさける。
6) とうもろこし	CIPC・ アラクロール	乳	実	土 壌	播 種 後	㊥ 20~25 g/a	全 土 壌	寒 地	但しシロザに劣る。
	アトラジン 500FW	乳	実・継	土壌～茎葉	播種後～雑草 2～3葉期	㊥ 10~20 g/a	全 土 壌	寒地～ 温暖地	イネ科雑草には効果がやや劣る。
7) ばれいしょ	プロメトリン	水和	実	土 壌	萌芽前5日前 後～萌芽直前	㊥ 10~20 g/a	全 土 壌	寒地～ 寒冷地	
	NTN-70	水和	実・継	土 壌	萌芽期まで	㊥ 10~14 g/a	全 土 壌 火山灰土	寒 地 寒冷地	・採種用は萌芽直前まで。 ・特に器具の洗浄をする。 ・薬量厳守
8) てん菜直播	HSW— 4901	水和	実・継	茎 葉	てん菜の本葉 2葉展開期	㊥ 20~30 g/a	全 土 壌	寒 地	・非イオン系展着剤使用 ・雑草の発生揃であること。
	SL-38	乳	実・継	土壌～茎葉	播種直後～子 葉展開期	㊥ 100~ 150 g/a	全 土 壌	寒 地	
9) てん菜移植	SL-38	乳	実・継	茎 葉	移植直後～活 着まで	㊥ 100~ 150 g/a	全 土 壌	寒 地	
10) こんにゃく	バラコート	液	実・継	茎 葉	開 葉 後	㊥ 20~30 g/a	全 土 壌	寒冷地	・2年生以上に使用する。 ・小葉への散布はさける。

	薬 剤 名	剤型	判 定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
11) さとうきび	アメトリン	水和	実	土 壌	植付後・ 株出し	⊕ 20~30 g/a	全 土 壌	暖 地	
	NTN-70	水和	実・継	土壌～茎葉	植付直後	⊕ 30g/a	全 土 壌	暖 地	
					雑草 2葉期	⊕ 20~30 g/a			

昭和49年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和49年度水稻・畑作関係生育調節剤試験の成績検討会は、昭和49年12月10日東京（於東京農林年金会館）で例年のとおり開催された。

本年度は、水稻関係について16薬剤、畑作関係4薬剤が供試された。供試薬剤の判定結果を示すと、次表の如くである。

昭和49年度水稻・畑作関係生育調節剤審査判定及び使用基準

A. 水 稻

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) ベンジル アデニン (液)	・ N-6-ベンジルアミノプリン 3%	・ 稚苗の活着促進、老化防止	継		・ 有望であるが実用化の検討を更に進める。
2) ポーマンP粉 L液	・ P ; SiO ₂ + 魚成分 + CaO 0.015+0.8+6.0% ・ L ; SiO ₂ + 魚成分 + CaO 0.008%+2%+ 400ppm	・ 成長促進 ・ 品質改善	継 ?		・ 水稻に対する効果は明瞭でない。 ・ 対象作物をかえて作用性の検討をする。